

優れた解説とあわせて広く活用されることを期待する

国士舘大学政経学部教授・大阪大学名誉教授(日本経済史) **阿部武司**
 柏書房より『工業調査彙報』全72号が復刻されることを心から喜びたい。農商務省とその後身の商工省が大正12年から昭和14年にかけて刊行したこのシリーズは、日本工業の実態調査の成果と海外工業の紹介とを収録したもので、経済史、産業史、経営史等の研究には不可欠であるが、従来は大規模な図書館でなければ閲覧が難しかった。平沢教授の優れた解説とあわせて本資料集が、大学等の公共図書館で今後広く活用されることを願ってやまない。

戦間期の工業を知るための貴重な資料

駿河台大学経済経営学部教授(日本経済史) **大森一宏**
 筆者が調べた戦間期の陶磁器業やメリヤス業の場合、発展する産地と衰退する産地、貿易摩擦、産地内の企業間の対立と協調、補助産業の発展、新製品の登場などさまざまな興味深い動きがみられた。そうした動向の内実をより深く知るためには、技術や現場の事情を知悉した調査者による報告がたいへん役に立つことは言うまでもない。戦間期の経済に関心をよせる研究者の一人として、農商務省・商工省の技師による貴重な実態調査が多数掲載された『工業調査彙報』が復刻されることを心から喜びたい。

戦間期日本の経済史・経営史研究の深化のために

南山大学経営学部教授・大阪大学名誉教授(日本経済史・経営史) **沢井実**
 柏書房から農商務省工務局・商工省工務局編『工業調査彙報』全巻の復刻版が刊行されるという。『工業調査彙報』の最大の魅力は、戦間期日本の重要産業・新興産業に関する詳細な情報を提供してくれることであり、同時に科学的管理法やリミットゲージシステムなど同時代に議論の焦点となった経営管理技術、産業技術などについても豊富な事例が紹介されている。『工業調査彙報』を土台にして新たな企業史料が発掘され、斬新な経済史・経営史研究が出現することを期待したい。

戦前期工業史の研究に有益な情報を豊富に含む

北海道大学大学院文学研究科教授(日本経済史) **白木沢旭晃**
 今回、復刻された『工業調査彙報』には、戦前期工業史を研究するための有益な情報が豊富に含まれている。書き手が技術者であったためか、たとえば人造絹糸(レーヨン)工業に関する情報が1920年代後半に見られるなど、情報入手が早い。また工場の地方分散に関する記事が1930年代半ばに見られるなど、政策展開を先取りしている面もある。大学図書館等には原本が限られた年次のものしか所蔵されない資料なので、復刻版刊行を歓迎したい。

企業レベルから分析された、中身の濃い産業史

学習院大学経済学部教授(日本経済史・経営史) **鈴木恒夫**
 本シリーズの特徴の一つに農務省技師の執筆による調査記事がある。世界市場での動向や輸出入に加えて、日本企業では、製法、操業開始年、原価や製品の販路まで記されており、製法間の比較や他産業への関わりなども幅広く理解できる。染色業では、輸入品との競争が日本各地の産地の生産技術や経営状態にまで踏み込んで分析されていて内容の濃い、簡潔な産業発展史と言える。合成染料では、染料専門企業か中間物兼営企業かの相違も分かる。一読されたい。

配本計画

〈第1回配本〉：第1巻第1号～第3巻第4号(大正12年1月～大正15年3月)	【2017年3月刊行予定】
〈第2回配本〉：第4巻第1号～第7巻第5号(大正15年5月～昭和5年2月)	【2017年9月刊行予定】
〈第3回配本〉：第8巻第1号～第12巻第5号(昭和5年4月～昭和10年3月)	【2018年3月刊行予定】
〈第4回配本〉：第13巻第1号～第16巻第2号(昭和10年6月～昭和14年3月)	【2018年9月刊行予定】

柏書房の関係資料

中外物価新報

 復刻版 全34巻 全6回配本

日本経済新聞 [監修]
 B4判 各配本につき
 揃定価(本体180,000円～250,000円+税) ※分売不可

明治期の物価、流通、証券の研究に必須の資料。各地の物産相場、輸出入状況、為替相場など日本資本主義の黎明を克明に記録した経済ジャーナリズムの先駆。ロンドン、ニューヨーク、上海などの海外市況も速報。明治9年～明治22年に発行された、『日本経済新聞』の前身紙。

中外商業新報

 明治期復刻版 全246巻 全24回配本

日本経済新聞 [監修]
 B4判 各配本につき
 揃定価(本体250,000円～300,000円+税) ※分売不可

『中外物価新報』の後継紙。明治22年『中外商業新報』に改題され、戦時期に『日本産業経済』、戦後さらに『日本経済新聞』と改題され、今日に至る。日本を代表する経済ジャーナリズムであり、日本近代経済史研究に必須の資料。

時事新報

 大正期復刻版 全173巻 全29回配本

池内輝雄・奈良岡聰智 [監修]
 A3判 第7回配本まで刊行済
 各揃定価(本体250,000円+税) ※分売不可

明治15年に福沢諭吉が創刊。特定の政党に組することなく不偏不党の立場を貫き、高い取材力を武器に「日本一の時事新報」と称され、東京五大新聞(東京日日・報知・国民・東京朝日・時事)の一角を占めるに至った。

大正から昭和戦前にかけての
 日本経済の動向を
 俯瞰・分析するうえで不可欠の基礎資料、
 ついに復刻!

工業調査彙報

復刻版

(全28巻・全4回配本)

【解説】平沢照雄(筑波大学人文社会系教授)

製品の販路や関係会社にまで踏み込んだ、精緻な
 日本市場分析。世界市場の動向や国内産業の変遷
 を、農商務省技師たちはどう捉えたか。

【本資料の特色】

- ◎ 大正12年から昭和14年までの17年間にわたり、農商務省・商工省工務局が編纂した貴重な実態調査資料。全72号を通覧することにより、戦間期の産業動向が明らかになる。
- ◎ 農商務省・商工省の技師らが中心を担った重要産業・新興産業の調査分析であり、国策の立案・展開のベースともなった基礎データが一望できる。
- ◎ 全国各地の調査報告のほかに、諸外国における動向も彙報・雑録欄で随時紹介。当時の工業界に提供された最新情報が把握できる。

◎造本体裁
 A5判上製・総15,500頁

◎揃定価 ※各回とも分売不可
 各回揃本体200,000円+税

第1回配本 ISBN978-4-7601-4790-8

第2回配本 ISBN978-4-7601-4816-5

第3回配本 ISBN978-4-7601-4824-0

第4回配本 ISBN978-4-7601-4832-5

第1回配本 第1巻第1号～第3巻第4号
 (大正12年1月～大正15年3月)(全8巻)

第2回配本 第4巻第1号～第7巻第5号
 (大正15年5月～昭和5年2月)(全7巻)

第3回配本 第8巻第1号～第12巻第5号
 (昭和5年4月～昭和10年3月)(全7巻)

第4回配本 第13巻第1号～第16巻第2号
 (昭和10年6月～昭和14年3月)(全6巻)

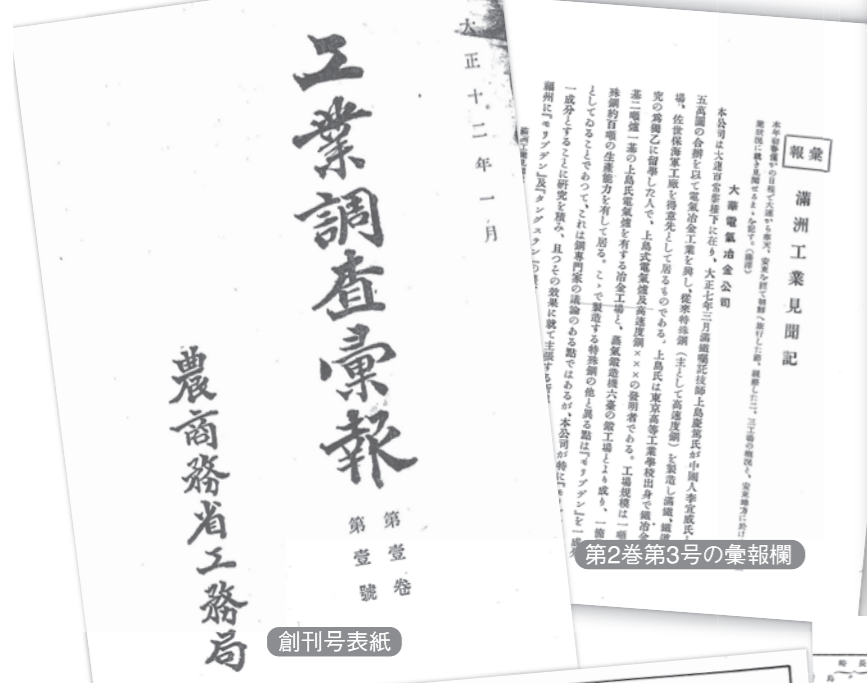
柏書房

〒113-0033 東京都文京区本郷2-15-13 TEL.03-3830-1891 (営業) FAX.03-3830-5337
 E-mail:eigy@kashiwashobo.co.jp URL:http://www.kashiwashobo.co.jp

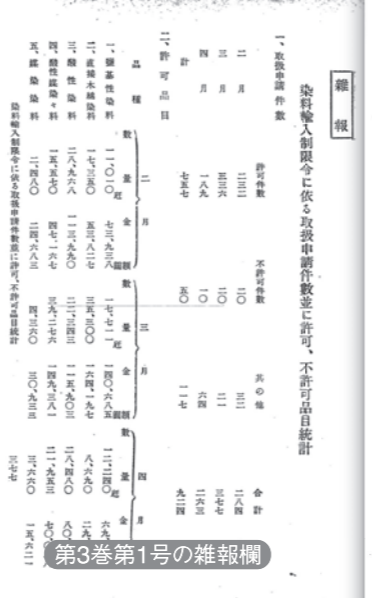
戦間期における経済史・経営史・企業史・地域史研究の深化に大きく寄与する、貴重な実態調査の宝庫



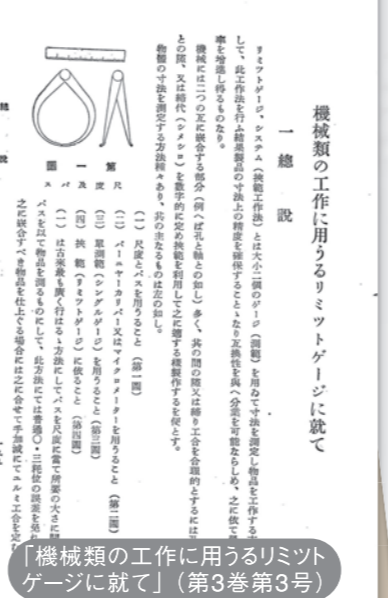
業調査彙報 第七巻 第五号 (特集：繊維工業)
繊維工業能率増進に関する調査 (第7巻第5号)



第2巻第3号の彙報欄



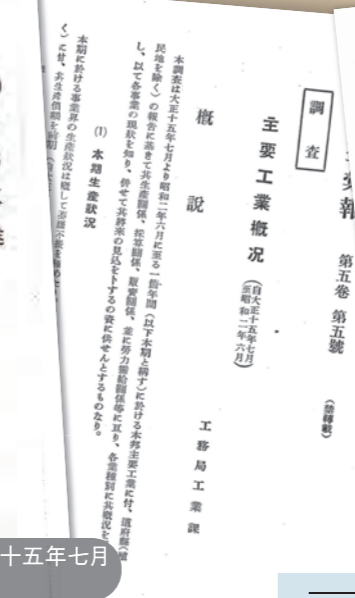
第3巻第1号の雑報欄



「機械類の工作に用いるリミットゲージに就て」(第3巻第3号)



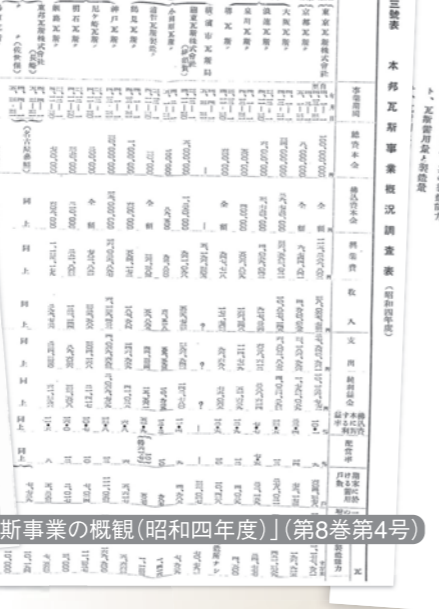
工務局工務課「主要工業概況(自大正十五年七月至昭和二年六月)」(第5巻第5号)



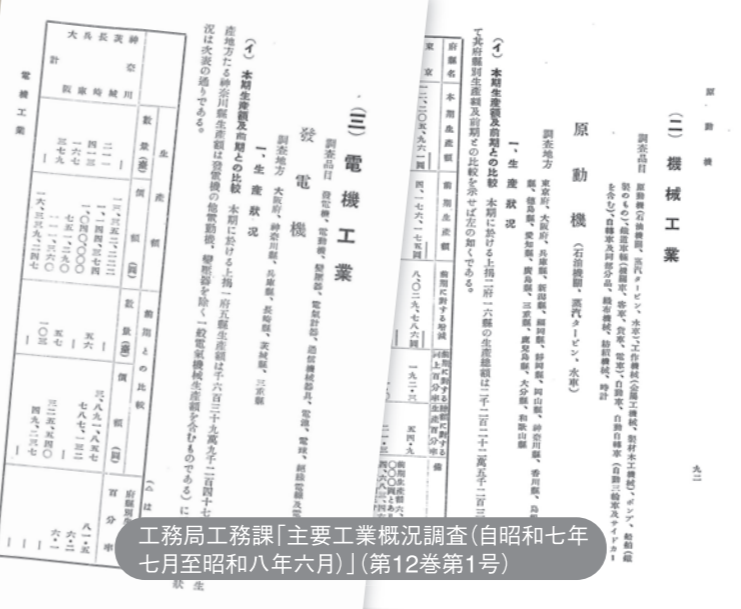
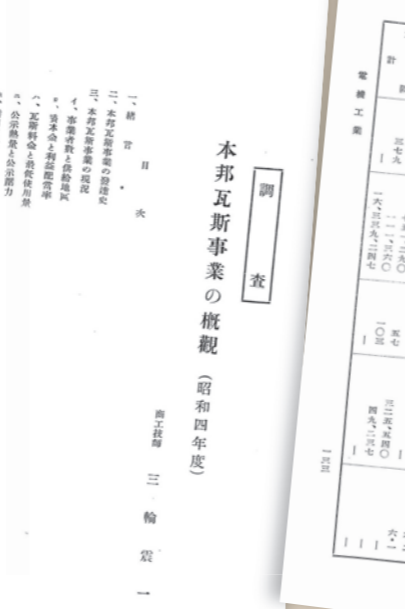
全巻構成	
第1巻	第1巻第1号(大正12年1月)
第2巻	第1巻第2号(大正12年3月)
第3巻	第1巻第3号(大正12年5月)
第4巻	第1巻第4号・第5号(大正12年7月・大正13年2月)
第5巻	第2巻第1号・第2号(大正13年7月・10月)
第6巻	第2巻第3号・第4号(大正13年12月・大正14年3月)
第7巻	第3巻第1号・第2号(大正14年6月・12月)
第8巻	第3巻第3号・第4号(大正15年1月・3月)
第1回配本	
第9巻	第4巻第1号～第3号(大正15年5月～10月)
第10巻	第4巻第4号～第6号(大正15年11月～昭和2年3月)
第11巻	第5巻第1号～第3号(昭和2年5月～12月)
第12巻	第5巻第4号・第5号(昭和3年1月・2月)
第13巻	第6巻第1号・第2号(昭和3年7月・11月)
第14巻	第6巻第3号・第4号(昭和3年12月・昭和4年3月)
第15巻	第7巻第1号～第5号(昭和4年5月～昭和5年2月)
第2回配本	
第16巻	第8巻第1号・第2号(昭和5年4月・6月)
第17巻	第8巻第1号～第3号(昭和5年12月～昭和6年4月)
第18巻	第9巻第1号～第4号(昭和6年10月～昭和7年3月)
第19巻	第10巻第1巻～第4巻(昭和7年7月～昭和8年3月)
第20巻	第11巻第1号～第5号(昭和8年5月～昭和9年3月)
第21巻	第12巻第1号・第2号(昭和9年5月・8月)
第22巻	第12巻第3号～第5号(昭和9年11月～昭和10年3月)
第3回配本	
第23巻	第13巻第1号・第2号(昭和10年6月・8月)
第24巻	第13巻第3号～第5号(昭和10年10月～昭和11年1月)
第25巻	第14巻第1号～第3号(昭和11年7月～11月)
第26巻	第15巻第1号～第3号(昭和12年5月～9月)
第27巻	第15巻第4号～第5号(昭和12年10月～昭和13年1月)
第28巻	第15巻第6号～第16巻第2号(昭和13年3月～昭和14年3月)



三輪震一「本邦瓦斯事業の概観(昭和四年度)」(第8巻第4号)



本邦瓦斯事業の概観(昭和四年度)



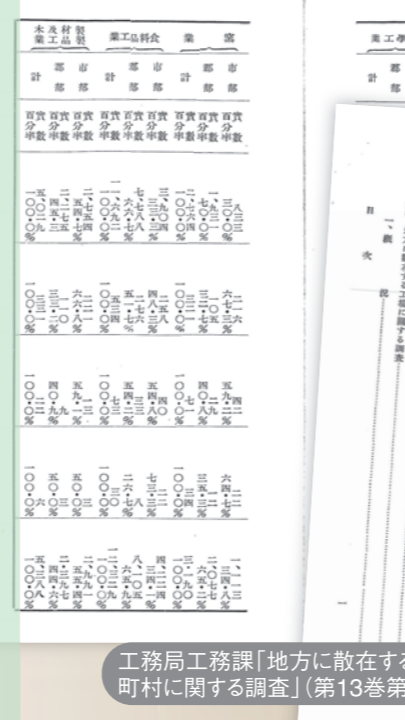
工務局工務課「主要工業概況調査(自昭和七年七月至昭和八年六月)」(第12巻第1号)

『工業調査彙報』について
「工業調査彙報」は大正12(1923)年1月に創刊され、昭和14(1939)年3月発行の第16巻第2号まで約17年にわたり、全72号が発行された。

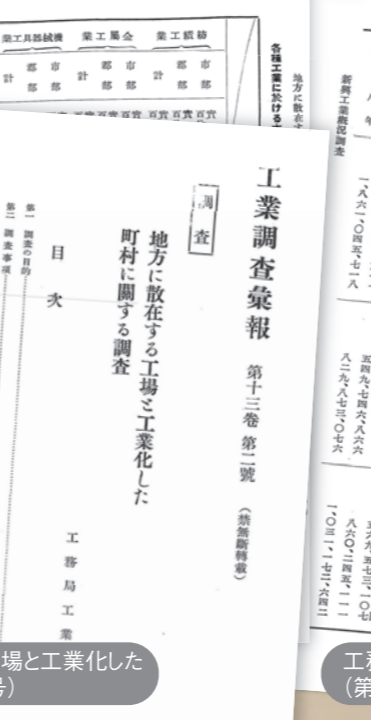
創刊当初は農商務省工務局が発行を担ったが、大正13(1924)年10月発行の第2巻第2号より農商務省工務局(大正14年9月発行の第3巻第1号より商工省工務局)が編集、工政会出版部(第2巻第2号のみ工政会)が発行する体制をとった。

当初は非売品であったが、発行元が工政会に変更となった第2巻第2号より定価が表示されている。例言に「本工業調査彙報は自分の間隔月に刊行するものとす」とあるが、隔月で刊行されたのは最初の4号分のみで、以後はラジダムに刊行されている。

内容は、例言に「本工業調査彙報は工務局各課、及び工務局関係官衙に於て調査若しくは外国雑誌より翻訳せるものを輯録せるものにして、執務の便宜と一般工業界の参考に供せんがため印刷を以て謄写に代ふるものとす」とある通り、農商務省工務局および商工省工務局の技師による実態調査や海外諸雑誌の内容紹介により、大正から昭和戦前期にかけての各種産業の動向を分析したものであり、日本経済史全般に及ぶ幅広い分野の研究に役立つ貴重なデータの宝庫である。



工務局工務課「地方に散在する工場と工業化した町村に関する調査」(第13巻第2号)



工務局工務課「新興工業概況調査」(第13巻第3号)

